



一般社団法人 日本LD学会

会 報 第 88 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイビル 8F
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

主な記事

<特集>

- ・公開シンポジウム（岐阜）について
- ・障害者権利条約の批准について

<連続講座>

- ・中学校での通級指導教室の実践
- ・各地の発達障害者支援センターの取り組み

<お知らせ>

- ・第2回代議員選挙結果の報告



子どもたちから「支援」を学ぶ 教育のユニバーサルデザイン

滋賀大学教育学部附属特別支援学校

小 西 喜 朗

ここ数年、「支援の必要な人に必要な時に必要な支援をする」という特別支援教育の取り組みが、通常の学級においても個別の指導計画に基づいた支援が定着してきたように思います。また、通常の学級における授業改善についても、クラスにいる発達障害などの支援が必要な子どもたちの個別の指導計画から具体的なヒントを得て、通常の授業における配慮について考えていく「授業のユニバーサルデザイン」の取り組みがあちらこちらで行なわれるようになってきました。校内研究や市町で「教育のユニバーサルデザイン事業」として取り組まれているところもあり、私もご一緒させてもらい、学ばせていただく機会が増えてきました。

個別の指導計画を作成している子どもたちを中心に、授業でのつまずきを観察し、その内容を整理していきます。「支援」は、内容とタイミングが重要ですので、授業での「参加（出番）」と「活動」をどう仕組むか、授業を工夫するヒントにします。

一人でも多くの子たちが参加し「わかる」授業

を考えていくとき、いろいろな議論があります。具体的ということばがありますが、この子にとっての「具体」や「視覚化」とはどういうことか。内容だけでなく提示の仕方にも工夫がいることを学んだり…、授業内支援でクリアできない内容はどのような支援形態でおこなうことが良いのか…、学びを共有するためにはどういう仕掛けがいるのか…、方法から入りがちな議論を個々の子どもたちの特性やつまずきの実態を根拠にしながら授業を組み立てていく。今までも取り組まれ、当たり前といえども当たり前かもしれませんが、しかし、そのクラスのいくつかの個別の指導計画に基づく支援を根拠とした議論を支援内容を整理していくことで、具体的に順番と活動が議論され、次に繋がるものが残っていくように思いました。これからも授業改善に取り組まれる学校や地域が増えていくと思います。子どもたちが主役です。子どもたちからいろいろと学びながら、歩きながら考えていきたいと思っています。